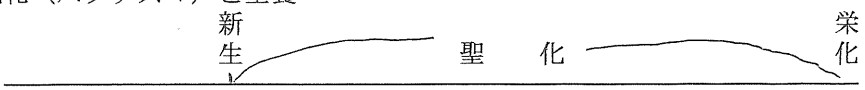
主が定められた聖礼典

２０２６年１１月１５日

ローマ人への手紙　　６章１～１１節
マタイの福音書　　２８章１８～２０節
コリント人への手紙Ⅰ　１１章２３～２９節
マルコの福音書　　１４章２２～２６節

序：教会の活動
⑴礼拝（賛美、祈り、献金、みことば）
⑵聖礼典（洗礼、聖餐）
⑶福音宣教

Ⅰ．洗礼（バプテスマ）と聖餐



Ⅱ．洗礼（バプテスマ）
⑴主がお定めになった　復活後　　マタイ　２８・１８～２０（大宣教命令）

⑵イエス・キリストを神・救い主と信じ告白した者に授けられる（信仰のしるし）
父・子・聖霊の御名によって
三位一体　　1
⑶イエス・キリストの模範　　マタイ　３・１３～１７

⑷初代教会で最初から実践されていた　使徒　２・４０～４１

⑸旧約時代の出エジプト（罪の国　⇨　約束の地カナン）中に紅海を渡った
イスラエル人のしるし　＝　割礼（男子のみ）

⑹その意味　　ローマ　６・１～１１
キリストの死と復活（新しいいのち）にあずかる
キリストとともに罪に対して死に、神に対して生きる
もはや罪と無関係（分離）　　神への責任（結合）

⑺方法
⑴滴礼（頭に水を注ぐ）　　⑵浸礼（全身水に浸す）

⑻用いられる物質　＝　水　（洗い、清め）

Ⅲ．聖餐
⑴主がお定めになった　　十字架を目前　渡される夜　マルコ　１４・２２～２６
過越の食事

⑵イエス・キリストを信じ告白して、洗礼を受け、教会の一員となった者が与かる
（洗礼を受けていない者、幼児洗礼のみの者は受洗後、信仰告白に至ってから）

⑶イエス・キリストと弟子たちによる最後の晩餐が原点

⑷初代教会で最初から実践された　　使徒　２・４２
パンを裂く（聖餐と愛餐）
42節　46節
キリストが信者を招いてくださる食卓
信者たちが主をお招きしての交わりの食卓

⑸旧約時代：神にささげたいけにえを（律法にしたがって）ともに食した
イスラエル人がもっとも重視したのが過越の食事（出エジプトの記念

⑹その意味
①イエス・キリストが成就してくださった救いの御業を記念する

②聖化の歩みを確かなものとする恵みの手段（悔い改め・感謝・献身の思い）

③主が再臨されるまで（世の終わりまで）、主の死を告げ知らせる

⑺方法
主の裂かれたからだの象徴：パン
主の流された血潮の象徴　：ぶどう酒、ぶどう液
自分自身を吟味して、ふさわしい仕方であずかる
取って食べよ、取って飲め：与かる信者の自発的意志が求められる
祝福・恵みをないがしろにして、さばきを受けないように

⑻用いられる物質
①パン（体）　②ぶどう酒（血）

Ⅳ．結び
⑴プロテスタント教会の聖礼典は、二つ＝洗礼と聖餐のみ（主が制定されたから）
カトリック教会は７つの聖礼典がある（人間が定めたものを付け加えた）

⑵イエス・キリストを信じた者への（その集まりである教会への）神が与えてくださった恵みの手段（この世と区別、闘い多い信仰生活が完うされるように）

⑶主とみことばと教会に仕える歩みが励まされ、聖徒たちが心をひとつにして、主を証しできるように　（神の愛、キリストの恵み、聖霊の助け：神との結合）

⑷聖礼典にあずかるには、事前の備えが必要：祈り備えて、ふさわしい態度で

⑸聖礼典によって、私たちがこの世にありながら神の所有とされ聖別されている者、ゴールが天国であることを思い出させていただける

⑹洗礼は一度でよい（新生は１度）が、聖餐は繰り返しあるのは（聖化は召天まで続く）私たちが恵みによる救いを忘れやすいから
主への誓いを新たにし、福音の証しに勤しむための主の恵みの手段